



10月27日、市は公社・京都府宅地建物取引業協会と「公社」全日本

## 移住 官民一体で移住定住を促進 空き家の活用に向けて連携

不動産協会京都府本部と「移住定住施策に関する連携協定書」を締結しました。

この協定は、地域が有する資源や魅力を最大限に発揮したオリジナルの地方創生戦略を展開していくことが重要であるとの共通認識のもと、包括的に移住定住の取り組みを連携して行っていくことを定めています。市では現在、移住希望者などに対し、登録された空き家を住まいとして紹介する「空き家バンク」制度や移住先の自治会との仲介を実施しているほか、10年

## 表彰 地方自治法施行70周年を記念 舞鶴市が表彰されました

総務省が地方自治法施行70周年を記念し、地方自治の進展や住民の福祉の増進に努めた個人・団体を表彰する地方自治功労表彰において、自らの創意工夫により優れた施策を実施し、地方自治の充実発展に寄与したとして舞鶴市が受賞しました。

府北部地域連携都市圏の会長・事務局として府北部7市町の連携強化や地域活性化を促進したこと、ユネスコ世界記憶遺産に登録された引揚記念館所蔵資料や赤れんが倉庫群などの文化遺産を活用した観光誘客を促進したこと、また、京都舞鶴港を生かしたクルーズ誘致・産業の活性化を促進した功績が評価されました。詳細は、広報まいづる1月号で紹介。

▼詳しくは、企画政策課（☎66・1042）へ。

## 協定 市と舞鶴警察署がタクシース社と協定 タクシースを動く防犯カメラに

10月13日、赤れんが2号棟で平成29年全国地域安全運動のスタート式が行われ、市と舞鶴警察署、市内タクシース社3社、京都タクシース・日交タクシース・ふくタクシースで「舞鶴市ドライブレコーダーによるまちの見守り協定」を締結しました。

この協定は、事件や事故などの捜査の際にドライブレコーダーの記録した映像を活用することが目的で、タクシースへのドライブレコーダーの導入費用の2分の1を市が補助するもの。これにより市内を走るタクシースが動く防犯カメラとして事件や犯罪を未然に防ぐ抑止力になることが期待されます。

▼詳しくは、市民課（☎66・1006）へ。



## 豪雨・暴風の災害

10月22日・23日にかけて日本列島を襲った台風21号による豪雨・暴風で、舞鶴市内各地区において甚大な浸水被害を受けたほか、山崩れなども発生しました。



①浸水したマナイ商店街。床上浸水も発生（引土）  
②崩れた田んぼのあぜ（与保呂）  
③崩落で通行止めになった府道池辺京田線（別所）  
④波浪で損壊した防波堤（田井）  
⑤浸水で通行止めになった国道175号線。床上浸水も発生（志高）  
⑥農地に土砂が流れ込む（和田）  
⑦土砂崩れて家屋に被害（白浜台）

## 復旧に向けた活動 多くの支援者に感謝

10月25日に舞鶴青年会議所とガバンス舞鶴、舞鶴市ボランティアセンター、市社会福祉協議会が「舞鶴災害ボランティアセンター」を開設。市内外から216人（7団体27個人）が参加し、浸水被害を受けた家屋の泥出しや家具・畳の搬出などを行いました。また、11月1日～11月末日に市やJA京都にのくに、市農業委員会が農業災害ボランティアセンターを開設。市内外から約100人に参加いただき、復旧に向け多くの支援をいただきました。



①日星高校の生徒による泥や災害ゴミの搬出（魚屋）  
②農業災害ボランティアによる農地の復旧作業（上東）  
③住宅の敷地内に流れ込んだ土砂を搬出する災害ボランティア（志高）

## 公園 西運動公園新名称候補が決定 「伊佐津川運動公園」に

7月に一部使用開始した西運動公園の新たな名称候補が「伊佐津川運動公園」に決まりました。市民の皆さんにより親しまれる公園となるよう名称を募集し、集まった63点の中から厳選した7点による投票で決定（投票期間：9月14日～10月20日）。市議会12月議会で承認され次第正式に決定となります。

新名称には「伊佐津川の名前を残したい」という応募者の思いが込められています。



応募者は大室文雄さん（北吸）

《スポーツ振興課》